

王家の島伝説

第一章

琉球国王、金丸の足跡

島を出て首里王府の役人へ

「金丸を王に」、家人から国王へ

1415年、伊是名島の農家に生まれた北の松金（にしぬまらぢ）。一農民から島を出て首里王府の役人となり、やがて琉球の国王までにのぼりつめた人物です。王の生地には、若き日の王の銅像が建てられ、首里王御殿公園となっています。北の松金は、20歳の時に両親を失い、島に田を構えました。島を離れるまで、この伊是名島で24年の年月を過ごしました。



第二章

王族が暮らす島

「尚円王の家筋、四殿内」

約400年に渡る長期政権を誇った、琉球王国。その一国の王となった尚円王は、生まれ育った伊是名島に居住する親族に特別な職を与え、経済的な恩恵を受けました。その日から、伊是名島は王家の島として、国家的聖地としての役割を持つ場所となりました。島に居住する姉、叔父、叔母に特別な職が与えられました。姉には阿母加那志（アマガナシ）の神職、叔父には銘刈大屋子（メカルベーチン）という特別職、叔母には北の二かや田の阿母（ニシノフタカヤノアム）という神女職を与えられ、後世代々とその職が受け継がれました。伊是名島には現在もその血筋が継承され、その家筋となる四家のことを「四殿内（よとつぬち）」と呼んでいます。

約400年に渡る長期政権を誇った、琉球王国。その一国の王となった尚円王は、生まれ育った伊是名島に居住する親族に特別な職を与え、経済的な恩恵を受けました。その日から、伊是名島は王家の島として、国家的聖地としての役割を持つ場所となりました。島に居住する姉、叔父、叔母に特別な職が与えられました。姉には阿母加那志（アマガナシ）の神職、叔父には銘刈大屋子（メカルベーチン）という特別職、叔母には北の二かや田の阿母（ニシノフタカヤノアム）という神女職を与えられ、後世代々とその職が受け継がれました。伊是名島には現在もその血筋が継承され、その家筋となる四家のことを「四殿内（よとつぬち）」と呼んでいます。



めかるけ 風格を称える 銘苅家

中面MAP 5 国指定重要文化財

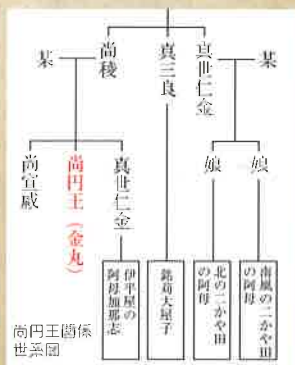
平成13年に国指定重要文化財となった銘苅家住宅。尚円王の叔父である真三良（まさぶろう）とその子孫が代々世襲した家屋。銘苅家は唯一士族として系図を持つことが許され、銘刈大屋子には国王への謁見が認められ、その権威・地位の高さを物語っています。琉球建築民家の中でも保存がよく、石垣と琉球様式の間取りが特徴とされています。



【銘苅家住宅】海石の石灰岩を積んだ石垣と、葉がつかつ重厚感のある骨組、整然とした琉球様式の間取りが特徴。



【名真家】尚円王の姉にあたる伊平屋の阿母加那志（あんがなし）/ 右土



【名真家】尚円王の姉にあたる伊平屋の阿母加那志（あんがなし）/ 右土
 【伊礼家】尚円王の従姉妹にあたる北の二かや田の阿母の家系 / 右中
 【玉城家】尚円王の従姉妹にあたる南風の二かや田の阿母の家系 / 右下

第二章

王家の威厳を偲ぶ

王族が眠る墓、伊是名白玉御殿

尚円王の父、母、姉、親族は島の南東に位置する「伊是名白玉御殿（いげなだまごうどん）」に葬られています。王の没後、数百年たった後も、工事・整備が続ぎ尚円王ゆかりの地は「国家的聖地」に位置づけられていました。1958年には、有形建造物として沖縄県から文化財に指定されました。



伊是名玉御殿 中面MAP 10
 1501年に造られたとされている。1687年に杉木造から、現在の石造の墓となった。



クージュシーミー

王族を弔う 公事清明祭

伊是名島の公事清明祭（クージュシーミー）がはじまったのは1870年頃。中国から伝わったとされる清明祭は祖先供養のための行事で、春分すぎの4月中に執り行われます。琉球王朝時代の様式は、今もなお人々によって受け継がれています。清明祭には、尚家親族や伊是名島の村人が参列。サムレー道を通り、尚円王の親族が眠る「伊是名玉御殿」を目指すのです。古文書によると、かつて首里王府から豚の頭やアヒル、鶏などが伊是名玉御殿へと運ばれ墓前に供えたとされます。供え物を飾る器は公事清明祭のためだけに贈呈され、尚家の家紋入り祭器が用意されました。古文書の一節からも、当時の王家の威厳が偲べます。



【現在の公事清明祭】現在は村長が主催形をとっている。奥から教育長、村長、名真家、銘苅家、伊礼家、玉城家の順に最前列に並ぶ。



「琉球文化」「島の歴史」発信拠点 中面MAP 11 伊是名村ふれあい民俗館

貝塚時代から古琉球、近世琉球、近代まで、伊是名島人々の暮らしを鮮明に呼び上げさせる貴重な品々を、歴史・民俗・考古に分けて展示。王家ゆかりの銘苅家収蔵品や具志川島で発掘された貝輪着装人骨をはじめ、約2500年前の竪穴式住居後の断面、さらに伊是名城跡から出土した海外交易を物語る陶器片などの展示物がみどころ。



【資料館に保存されている展示品／一例】

- 漆器 / 朱漆箔巴紋足付盆 しゅうりくはくともえもんあしつきばん
 銘苅家（旧政）の漆器。公事清明祭や祭祀で使用されていたとされ、巴紋が特徴的。
- 金工 / 黄色地巴紋御玉貫 せいりくちともえもんうたまき
 金属に細工する工芸「金工」の一つで、伊是名に現存するものは2点のみ。瓶にガラスビーズを繻んだカバーが特徴的。
- 陶器 / 増馬粘朱泥水注 むまねりしゅでいすいづ
 公事清明祭の祭壇にも登場する陶器の水注。琉球王朝時代に使用していたとされている。



皇朝時代	安土・桃山時代	江戸時代	明治時代	大正時代	昭和
1467 応仁の乱	1582 本能寺の変	1603 江戸幕府開場	1867 大政奉還	1894 日清戦争	1894 日露戦争
1914 第一次世界大戦	1941 太平洋戦争	1945 第二次世界大戦	1972 沖縄返還	1972 沖縄返還	2000 沖縄県設置

王家の島 伊是名を歩く

伊是名島



首里城
 那覇空港

伊是名島
 フットパス
 ルートマップ

首里王の故郷、
 王家の伝統が今なお継がれる
 「伊是名島」
 沖縄本島の北側に位置する伊是名島は、琉球国王とよびあつた「尚円王」が生まれ育った島。島の南東には王族が眠る墓があり、今も親族を弔う儀式が行われています。今なお、若き日の王が愛した村並が残り、随所に琉球王朝との密接な歴史の跡が記されています。



発行/伊是名村商工会
 問い合わせ/伊是名村商工会 TEL. 0980-45-2475
<http://www.okinawa-shoko.net/izen/>

写真 / 古い家々が比較的多く残る、情緒ある集落を守るように並ぶサンゴの石垣風景

A イハジャシュテー・伊是名集落コース

見渡す限り続くさとうきび畑。風が吹くと「ザワワ、ザワワ」という音が聞こえる。

光農場
伊是名島では珍しいマンゴー栽培をしている。収穫は7月から8月で、一度食べるとやみつきになる甘さ。

御殿(うどうん)
伊平屋の阿母加那志(あんがなし)

伊是名区ふれあい宿泊交流施設
地域の公民館と、観光客の宿泊施設が一体化になった施設。

伊是名酒造所
泡盛工場の香りが漂ってくる。

伊是名ノ口殿内
名前の由来は幹が徳利のような形をしているから。ただし、表面はトグに覆われており、木登りするのは無理。毎年3月ごろ、鮮やかなピンク色の花を咲かせる。

伊是名集落コースへ

コース上の注意

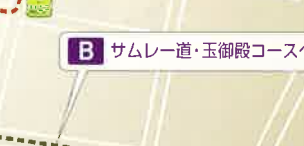
- このコースは生活道路に設けられています。グループで歩くときは、大きな声で騒いだりしないようにしましょう。
- 家畜や農作物は人が持ち込む病気にとってもデリケートです。無断で畑の中に入ったり家畜にさわったりしないようにしましょう。
- 帽子などで日除け対策をしましょう。
- コース上における事故等は自己責任となります

ハブがない伊是名島
沖縄県内には猛毒のハブが生息しているが、島によっては全く生息していないところもある。伊是名島もそのひとつ。太古の昔に地震変動で島が沈み、再び上昇して島が現れたとき、高い山がある島ではハブが生き残り、高い山がない島は海面下に沈んでハブが死滅したからだと考えられている。又、島の地質が一部、ハブの嫌う硫黄の鉱脈があるとも言われている。

凡例

- 危険箇所
- トイレ
- 室内履
- 水補給
- 伊是名名所
- ベンチ
- コースルート
- 寄り道ルート
- 接続ルート

島に流れるゆったりとした時間、あたたかい息づかいを感じるコース。四殿内の家屋を巡り、中でも権威ある銘刈家を見に行こう。



B サムレー道・伊是名玉御殿コース

伊是名島では二期作で米が栽培されている。民宿や食堂などのご飯はもちろん島の米。港のお土産品店では「尚円の里」というブランド名で販売されている。

伊是名山森林公園
海からの潮風に変化してつくりだされた見事な景観はまるできれいに手入れされた盆栽のよう。遊歩道が整備されており、美しい風景を眺めながら散歩できる。

伊是名玉御殿
伊是名玉御殿を管理した墓守の詰所。大正時代の末ころ廃屋になったものを昭和48年尚家の直系の子孫が復元した。

伊是名集落コースへ

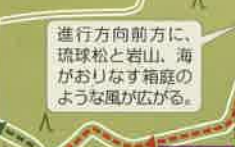
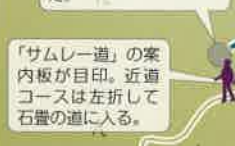
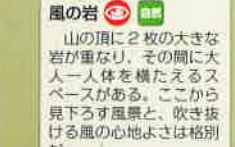
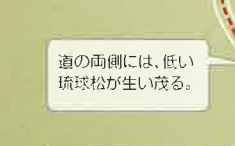
コース上の注意

- このコースは生活道路に設けられています。グループで歩くときは、大きな声で騒いだりしないようにしましょう。
- 家畜や農作物は人が持ち込む病気にとってもデリケートです。無断で畑の中に入ったり家畜にさわったりしないようにしましょう。
- 帽子などで日除け対策をしましょう。
- コース上における事故等は自己責任となります

コース上の注意

- このコースは生活道路に設けられています。グループで歩くときは、大きな声で騒いだりしないようにしましょう。
- 家畜や農作物は人が持ち込む病気にとってもデリケートです。無断で畑の中に入ったり家畜にさわったりしないようにしましょう。
- 帽子などで日除け対策をしましょう。
- コース上における事故等は自己責任となります

王族が眠る聖地、数百年の時を巡るコース。サムレー道を抜け、伊是名玉御殿までの道のりに、歴史の流れを感じよう。



4 神アサギ(県指定重要文化財)
集落の伝統的な祭祀を行う建物。内花を除く伊是名、仲田、諸見勢理客の各字にある。8本の石柱で支えられた壁のない茅葺の小屋で、軒の高さは約60cmかない。内部は土間で祭祀のときはムシロを敷いて神座がつけられる。

6 御殿(うどうん)
尚円の姉(真世仁金)の子孫と伝えられている。敷地は1000坪もあり、銘刈家よりも広い。敷地内には真世仁金を祀る祠がある。

9 伊是名ノ口殿内
ノ口とは村の神事を主宰する神女で、代々のノ口は王もしくは、その一族の側近として存在していた。

王家の歴史を訪ねる

2 神屋(かみや)
沖縄ではお墓と同じく祠トトメ(位牌)が祖先崇拝の対象として大切にされており、離島や地方では先祖伝来の土地に祠トトメだけを残すところも少なくない。このような家は神屋と呼ばれ、旧盆や正月になると家族や親戚が集まってくる。伊是名集落では、王もしくは、その一族に近い関係の一族が「神屋」を設置している。

3 サムレー道
銘刈家と伊是名城跡とを結ぶ約2kmの旧道のこと。サムレーとは王家と関わりのある士族のことを指し、かつて公事清明祭の際、伊是名玉御殿へ行くために利用された道。

11 伊是名グスク跡
琉球を初めて統一した尚巴志(しょうはっし)の祖父にあたる鮫川大主(さうまぬし)が14世紀の中頃に築城したとされる城跡。珪瓦(けいがん)でできた城は海抜約100m、三方が海や絶壁という天然の要塞で見事なヒラミッド型をしている。イワヒバ(県指定天然記念物)が自生。中腹に石川井戸(インチャー)と呼ばれる井戸がある。

史跡・名所を巡る

14 ウルガ
昔は正月にここから若水を汲んだ。子宝に恵まれない女性が年の数だけ豆を持って祈願し、井戸に落とすと子どもを授かることができるという言い伝えがある。現在、手動式のポンプが設置されており、野菜や農具を洗う水場として利用されている。

2 美織所(ちゅうらいんじょ)
今から150年ほど前、伊江島から伊是名島に嫁いだ仲村渠マカトという女性が永遠の愛を誓い、着物を見繕いながら恋人を待ちわびた場所とつたえられたところ。

8 しらさぎ展望台
シラサギが多く見られたことから名づけられたかは不明。陸ギタラ・海ギタラからチヂン岳、伊是名城跡まで一望できる。台状の岩の上に、落ちそうで落ちない岩がある。これに触ると受験に落ちない、と言われている。



絶景を訪ねる

7 マツエラ浜
「日本の渚百選」に選ばれた景勝地。美しい三日月型の白い砂浜の後背には琉球松の生い茂る岩山が迫り、変化に富んだ海岸の風景が広がる。島の聖地でもあり、夏場にはウミガメの産卵、孵化する浜として、保護されている。

4 陸ギタラ 5 ギタラ展望台 6 海ギタラ
「ギタラ」とは、切り立った岩肌の意味として伊是名島特有の方言と言われている。山間にあるのが陸ギタラ、海にあるのが海ギタラで、お互い向かい合うように立っている。二つのギタラの間にはギタラ展望台があり、ここから両方のギタラを眺めることができる。



お買い物情報

12 仲田共同売店
食品から生活雑貨までなんでもそろう店。近所に暮らす「おいしい」や「おばあ」が朝晩の日課として訪れ、売店のスタッフは、島人の様々な話を耳にする事情通。ここで島の裏話を聞き出せたら、あなたも名譽伊是名村民になれるかも?

1 伊是名酒造所
1949年に創業した泡盛の酒造所。昔からの伝統を受け継ぎ、島の天然水を使って「常盤」「金丸」「伊是名島」などの銘柄を作り出している。最高の麹で10年熟成された古酒「金丸」は香気な香りとまろやかな味のふくらみがある。同酒造所自慢の古酒だ。

